

診療科
血液内科

疾患名
再発・難治性多発性骨髄腫

レジメ名
DCd療法(1サイクル)

投与間隔
1コース 4 週間 計 1 コース

商品名	一般名	略号	投与量	投与方法	投与時間	投与日							
						day1	day2	day3	day8	day9	day15	day16	day22
ダラキューロ	ダラツムマブ		1800mg/body/day	sc	3-5min	●			●		●		●
カイプロリス	カルフィルゾミブ		20mg/m ² /day	div	30min	●	●						
カイプロリス	カルフィルゾミブ		56mg/m ² /day	div	30min				●	●	●	●	
デカドロン	デキサメタゾン	DEX	20mg/body/day	div	15min	●	●		●	●	●	●	
レナデックス	デキサメタゾン	DEX	40mg/body/day	po									●
メドロール	メチルプレドニゾロン	mPSL	20mg/body/day	po				●					

備 考

- ・75歳超例ではday9,16のDEX 8mg, day22のDEX 20mgに減量。
- ・カイプロリスは軽度～中等度慢性肝機能障害(28日間開けた2回の測定でTB 1xULN～3xULN or GOT又はGPT増加)で25%減量。その後も毒性に応じ45,36,27,30mg/m², 投与中止に調節。
- ・ダラキューロ投与の1～3時間前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤、副腎皮質ステロイド、ロイコトリエン阻害剤を前投薬する。具体的には1時間前までにカロナール900mg, モンテルカスト10mgを内服し、デカドロン + ポラミン 5mgのdivを終了する(15分間で投薬後、1時間生食100mLのみとしその後カイプロリスまたはダラキューロ)。ただしカイプロリスがないday22はデカドロン、ポラミンは1時間前の内服に変更可能。
- ・気管支喘息や、呼吸機能検査でFEV1.0<80%のCOPD例では、2日間はポラミンなど抗ヒスタミン剤内服、短時間作用型β 2アドレナリン受容体作用薬の吸入および、原疾患の治療が考慮される。
- ・ダラキューロ投与24時間以降に発現する遅発性infusion reactionを軽減させるため、必要に応じてレナデックス20mgの内服追加を検討する。ただし、ダラキューロ投与翌日にもともとレナデックス投与予定の場合は追加不要。
- ・カイプロリス点滴日にグラニセトロン注3mg使用。

登録年月日
2021年 6月 9日

登録No.
No. 473-1